

◆ 関西外国語大学 国際言語学部 准教授

鵜島 三壽 (うしま みつひさ)

○ 略歴：

- ・ 1988年3月 立命館大学大学院文学研究科博士課程前期史学専攻修了
- ・ 1988年4月～1992年3月 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- ・ 1992年4月～2008年3月 京都府教育委員会事務局文化財保護課
この間、無形文化財、民俗文化財、埋蔵文化財、文化的景観、世界遺産を担当
- ・ 2008年4月～現在 関西外国語大学国際言語学部准教授

○ 社会における活動（現在）：

- ・ 文化庁文化財部伝統文化課調査員
- ・ 京都大学人文科学研究所東方学研究部共同研究「中国古鏡の研究」班員
- ・ 日本茶・宇治茶の世界文化遺産登録可能性検討委員会調査研究部会部会員など

○ 講演題目：シルクロードの芸能～新疆ウイグルのムカーム～

○ 講演概要：

新疆ウイグル自治区は中国の北西端にあり、面積は約 166 万km²と全中国の約 1/6 をしめています。東はモンゴル、北はロシア、西はカザフスタン、キルギス、タジキスタン、アフガニスタン、南はパキスタン、インドなど 8つの国々と国境を接していることからわかるように、古来から交通の要衝でした。

ムカームとは、ウイグル族の伝統芸能で、さまざまな楽曲によって構成される歌と踊の総称です。音楽や舞踊の形態、使用楽器の多様性が特徴で、中央アジア最大の合奏音楽とされ、2005年には、ユネスコから「人類の口承及び無形遺産の傑作」として宣言をうけています。

本講では、調査で収録した映像を用いてムカームを紹介しながら、日本の古典芸能との関連を考えていきます。また、大谷探検隊が百年前に見た踊と、現在のムカームを比較検討してみましよう。